

研究速報
の上, 下に位置することが確かめられた。

4. 考 察

図 5 の理論曲線は塩塵で汚損された表面の湿潤条件すなわち周囲の蒸気圧が表面上に形成される食塩飽和溶液の呈する蒸気圧以上になることに基づいて算定されたものである。円筒がいしによる結果がモデル特性および理論曲線とほぼ一致した特性を有することから、この理論の実がいしへの適用は妥当なものと考えられる。さらに上記の事項から、吸湿開始時の相対湿度は周囲気温にはほとんど影響されず、温度差によって著しく影響を受けるとの理論的考察結果を検証することができた。温度差のフラッシオーバ特性への影響については、がいし表面近傍の相対湿度を考慮することによって説明できる。

5. 結 言

温度差実験用に試作した実がいしと同じ大きさの円筒がいしを用い、さきに明らかにした汚損面の吸湿開始時

の相対湿度に関する理論的考察結果を検討した。さらにかがいし表面温度のフラッシオーバ電圧への影響に関する実験結果を明らかにし、その表面状態についても考察を行なった。本実験装置は夜間におけるがいし表面の放射冷却を模擬するものであり、従来例を見ないものと考えられる。

筆者らはさきに屋外に暴露したがいしの温度差の実測結果について報告を行なったが³⁾、現在本所千葉実験所および超高压電力研究所武山研究所において実測を継続しており、数多くの実験成果を得ている。これらの結果については機会を改めて報告したいと考えている。

(1971 年 3 月 27 日受理)

参 考 文 献

- 1) 河村, 伊坂: 昭和 44 年電気学会東京支部大会論文集 250 (昭和 44 年 10 月)
- 2) 河村, 伊坂, 大平, 森田: 昭和 46 年電気学会全国大会論文集 931 (昭和 46 年 3 月)
- 3) 河村, 伊坂: 昭和 45 年電気学会東京支部 大会 論文集 275 (昭和 45 年 10 月)

正 誤 表 (5 月号)

ページ	段	行	種 別	正	誤
表 2			目 次	棚沢一郎	棚沢一郎
29	左	15, 21	本 文	$+2\frac{d\mu}{dx} \cdot \frac{\partial^2}{\partial x^2} +$	$+\frac{d\mu}{dx} \cdot \frac{\partial^2}{\partial x^2} +$
"	右		表 1	"	"
46	"	15	本 文	fluctuation	flucturtion
49	左		筆者紹介	棚沢一郎	棚沢一郎

